

ダイバーシティ社会の実現に向けた 表現のガイドライン【概要版】



瀬戸内市マスコットキャラクター
セットちゃん

1 ガイドラインの目的

私たちは広報紙、リーフレット、パンフレット、チラシなどの紙媒体やWebサイト、ソーシャルネットワーキングシステム(以下「SNS」という。)などの電子媒体などで情報を発信しています。また、対面や電話などで人と話すこと、会議で発言すること、事務文書を作成することも情報発信といえます。情報発信するときは、多様な受け手を意識し、誰が見ても違和感や疎外感を抱くことなく共感できる表現を心がけることが必要です。

ガイドラインは、どのような表現がなぜ問題になるのか、どのような点に配慮すべきなのかを知り、より効果的で受け手が違和感を抱かない表現を自ら考えるきっかけや判断基準を示すためのものです。

このガイドラインを利用し表現に対して関心を持ち、一人ひとりの価値観を高め、魅力的な情報発信をできるようにしていきましょう。

2 ガイドラインの対象

ガイドラインの対象は、対面及び電話で会話する時に私たちが発する言葉、発行する広報紙、パンフレット、ポスター、チラシ、刊行物、ホームページ、SNS、報告書などの原稿やイラスト、写真、映像、音声などすべての情報です。

3 具体的な着目点

(1)性別によって役割を決めつけた表現になっていませんか？

「女は家事、男は仕事」など、性別によって期待される役割にとらわれた表現をしていませんか。昨今、女性の社会進出も多くなり、家事・育児・介護は男性も担うべき役割となっています。また、家族の形態も多様化しています。

このような社会変化を十分認識し、固定的な役割分担意識を助長しない表現に努めましょう。

改善ポイント

- ・家事・育児・介護などを家族で共に取り組む姿で表現しましょう。
- ・性別と職業が結びつかないように、「男性の仕事」、「女性の仕事」と限定しない表現にしましょう。



家事をするのは女性とは限らない

(2)性別による固定的なイメージで表現していませんか？

性別で、服装や興味の対象、色の好みなどのイメージを自分の中で固定化させていませんか。

人はそれぞれ好みや意見が異なっており、「十人十色」です。性別によって必要以上に区別したり、固定観念や先入観により表現したりするのではなく、一人ひとりの個性を尊重し、自由な発想で表現しましょう。

改善ポイント

- ・色の好み・興味のあることは人それぞれです。性別のイメージにとらわれないようにしましょう。
- ・体格・特性は必ずしも性別と一致するわけではありません。個人差に配慮した表現にしましょう。



カップルは男女のみとは限らない

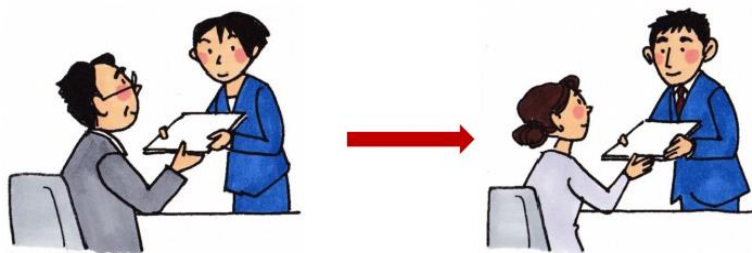
(3)個人の能力や適性を性別で決めつけていませんか？

男性は中心的・指導的・守る側、女性は補佐的・従属的・守られる側といった先入観を無意識に持っていないか。

性別による能力や適性に優劣はありません。「女だから、男だから」という理由だけで決めつけず、その人個人としての能力や人格を優先的に考える平等な視点での表現を心がけましょう。

改善ポイント

・立場・地位・職業は性別に関係なく、さまざまです。安易に性別と結びつけずに表現にしましょう。



指導的な立場は男性とは限らない

(4)人目を引くためだけの表現になっていませんか？

広告の表現で、見るものの目を引きつけ、意図的にその注目度を高める「アイキャッチャー」という手法があります。チラシやポスターを作成するとき、より多くの人に伝えるため、注目度を高める工夫は大切です。しかし、人目を引くことに重点をおいて、内容と無関係な人物の容姿を強調した表現を用いることは、その人物を「飾り物」として扱っていると批判されても仕方ありません。

伝えたい内容がより効果的に伝わる適切な表現を考えましょう。

改善ポイント

・誰に何を伝えたいかを考え、伝えたい内容に沿った表現にしましょう。



右のポスターの方が伝えたい内容に沿っていませんか？

(5)すべての性別が想定された表現になっていますか？

さまざまな生き方や家族形態が存在し、また女性が幅広い分野へ進出している現在、性別にとらわれない表現にすることが大切です。特に日常的に使っている言葉は、すべての性別の人が違和感なく受け取ることのできる表現を心がけましょう。

見直したい表現	望ましい表現	見直しの理由
カメラマン サラリーマン	写真家、フォトグラファー 会社員、従業員、職員	職業などを不必要に男性に限定している表現です。
父兄	保護者	男性を優先する偏った表現です。
女性議員、女性代議員	議員、代議士	性別を強調または、特別視する表現です。
奥さん、家内	妻、配偶者、つれあい、パートナー	男性を主、女性を従ととらえ、女性は家の中にいるものという印象を与える表現です。
主人、亭主、旦那	夫、配偶者、つれあい、パートナー	

4 多様な性の尊重

LGBTQ+をはじめとする性的少数者(性的マイノリティ)は、人口の10%前後であると言われています。これは左利きの人や血液型がAB型の人と同じぐらいの割合です。

(1)多様な性に関する基礎知識

- ①性のあり方(セクシュアリティ)は、主に心の性(性自認)、好きになる性(性的指向)、身体の性、表現する性(性別表現)の4つの要素で構成されています。人によって捉え方に差があり、その組み合わせも多様です。
- ②LGBTQ+とは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クイアまたはクエスチョニングの頭文字をとった言葉です。性的少数者の総称としても使われます。最後に「+(プラス)」がついているのは、性はとても多様であり、たくさんの性のあり方があることから、包括的な意味をもたせるためです。

(2)多様な性を尊重するための対応

性的少数者に対する差別や偏見は、人権だけでなく、人の尊厳にかかわる問題です。

- ・多様な性に関する正しい知識を身に付け、自分自身の日常の言動を見直しましょう。
- ・性的少数者は身近にいるという認識を持ち、職場や地域で、相手の意向を汲みながら柔軟に対応しましょう。

令和6(2024)年4月発行

発行:瀬戸内市 編集:瀬戸内市ダイバーシティ推進室

〒701-4292 岡山県瀬戸内市邑久町尾張300番地1

TEL:0869-22-3922 E-mail:diversity@city.setouchi.lg.jp